SPミュニティの構築と大学所有ノウハウの共有
~学認を発展させる方法~

2024年6月12日

エクスジェン・ネットワークス株式会社

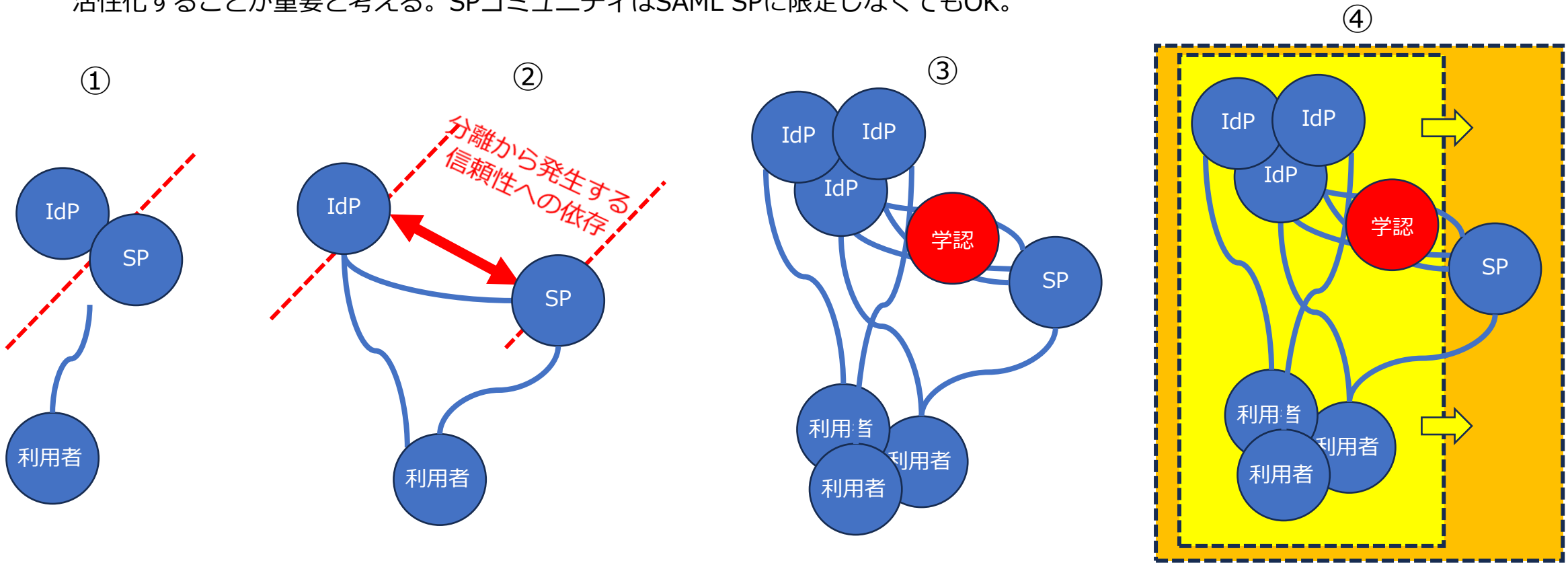
江川淳一

USE INNOVATIVE TECHNOLOGY.

1．３つの要件

1.1 SPコミュニティの必要性

① 昔はアプリケーションが認証を行っていた。
② 認証連携が普及し、SPとIdPが分離し、認証はIdPが行なうことになった。
・SPはIdPに認証処理を依拠し、IdPの認証結果を信頼する。
・認可に必要な情報はIdPから属性情報として送出される。SPは、この属性情報を信頼する。
③ DX(情報共有)の普及でSP~IdP間、複数のIdP間で認証結果や属性情報を信頼するためには、共通のルールとその監査を行う学認のような、トラストフレームワークプロバイダーの存在が必要となった。
④ 学認はIdPと主にそこに所属する利用者 (教職員、研究者、学生) のコミュニティで運用されているように見える。
⑤ 大学にとってIdPの整備はSPを有効活用するための手段である。学認コミュニティを発展させるためにはSPコミュニティを作り、活性化することが重要と考える。SPコミュニティはSAML SPに限定しなくてもOK。



1. 3つの要件

1.2 大学所有ノウハウ共有 (オープン~~サイエンス~~ノウハウ) の必要性

① 大学が独自に開発したアプリケーションは多く存在する。このようなアプリケーションの中で、他の大学でも利用可能なものも多くあるはずである。
② 他の大学がこのようなアプリケーションを見つけ出す場が今はないように思われる。
(AXIESや地域ごとの大学連盟のような組織がその役割を果たしているかもしれないが、、、)
③ また、見つけ出したとしても、自力で導入するにはノウハウと工数が必要。
これを大手Sierに委託すると非常に高価な見積となる傾向があると、大学関係者から伺っている。
④ また、このようなアプリを発掘し流通させるためには、
1. SaaS化 & SAML SP化
2. オープンソース化
等が必要と考えるが、これらを担う工数や組織がない。
⑤ これらを整備するためのベース作りを学認コミュニティで実施できないものだろうか。

1．3 つの要件

1.3 ベンダーのコミュニティ貢献という前提条件

① 学認コミュニティはベンダーにとってビジネスチャンスが多く存在する場である。
最近では「ヒト、モノ、カネ、情報に加えて5つ目の経営資源として ‘コミュニティ’ がある」と言われ始めた。
デロイトトーマツコンサルティング社は「Lead the Way Forum-未来に誇れ」の中で、そのコミュニティの要諦として、
以下の3点を挙げている。
1. 知識・ノウハウの共有化
2. パーパスの共有化
3. 自立分散型の意思決定

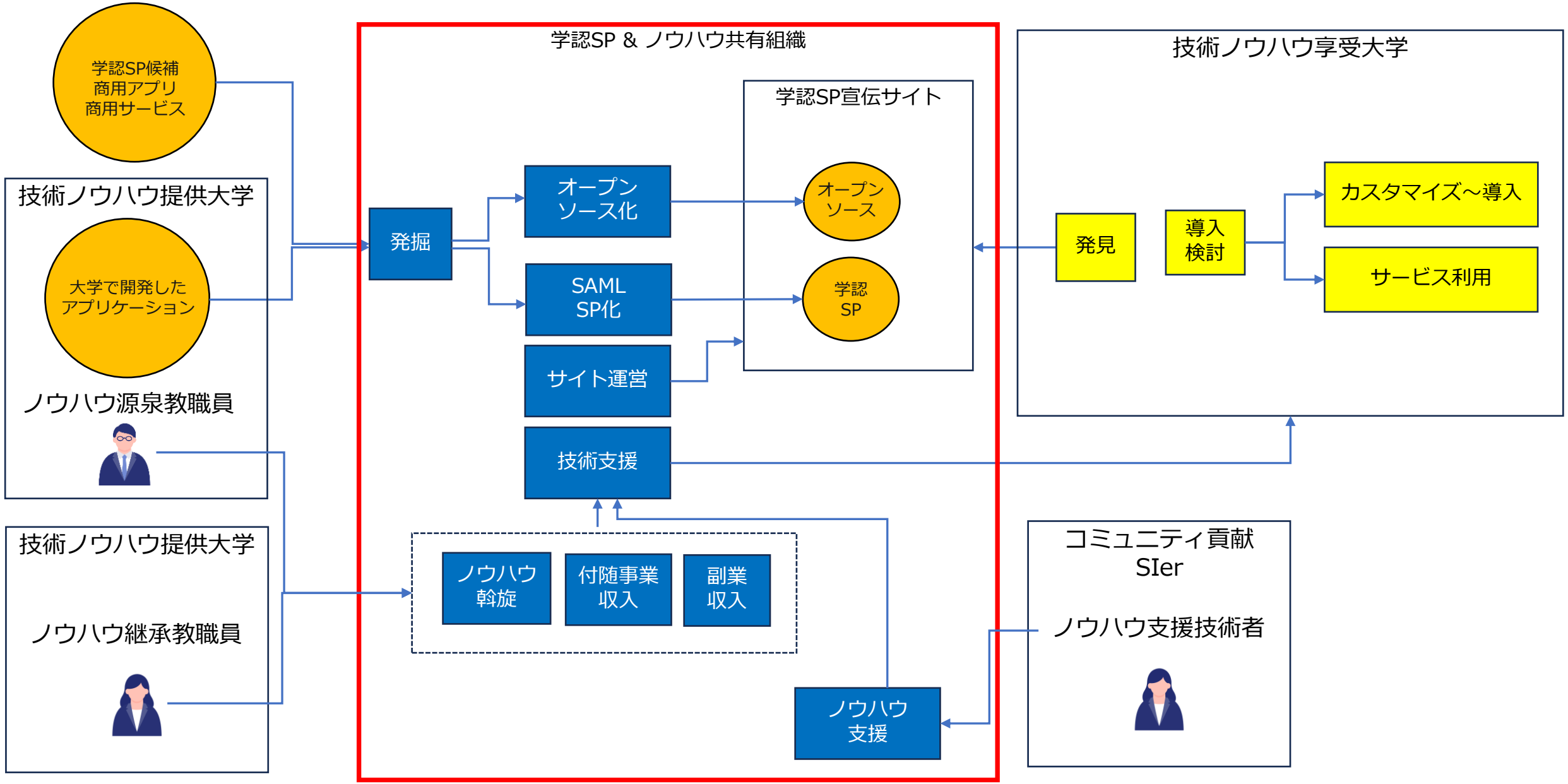
② 私見になるが、「ベンダーのビジネスチャンスは、コミュニティ貢献の後に存在する。」はずである。

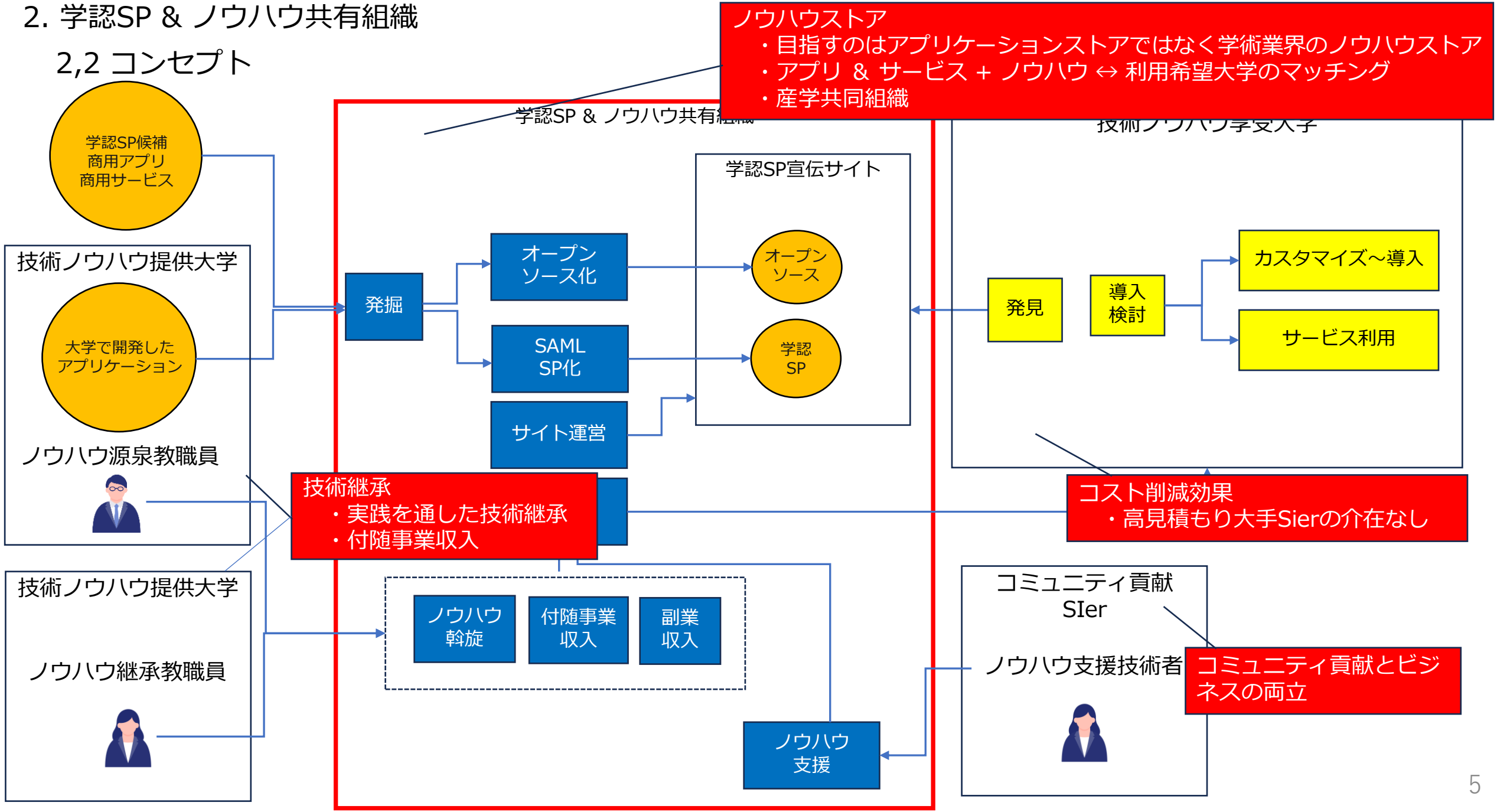
③ InCommonでは、InCommon Catalystsとしてベンダーをホームページ紹介しているが、このホームページ掲載の前提条件は、
数年にわたるコミュニティ貢献である。

④ 学認コミュニティにとってベンダーの協力は必要と考えるが、コミュニティと関連を持ちたいベンダーは、学認コミュニティを良くしようとする貢献姿勢を前提条件とするのが良いと考える。

2. 学認SP & ノウハウ共有組織

2.1 概要図



2. 学認SP & ノウハウ共有組織

2,2 コンセプト